

農林水産省登録 第 20064 号  
 性状：褐色水和性細粒及び微粒  
 毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 有効年限：3 年  
 包装：100g 袋、500g 袋

# パストリア® 水和剤

有効成分：パストリア ペネトランス胞子 1.0×10<sup>9</sup> (9 乗) 個 /g

パストリア®はサンケイ化学(株)の登録商標です。

## 特長

- 本剤は天敵微生物農薬（パストリア ペネトランス菌）でネコブセンチュウに寄生し、土壌中のセンチュウの増殖を抑制し、センチュウ害を低減します。
- 本剤の有効成分パストリア ペネトランス菌はネコブセンチュウを餌にして自己増殖します。またセンチュウに遭遇しなくても土壌中で数年間生存するため、長い残効が期待できます。
- パストリア ペネトランス菌は温度条件、水分条件等の環境変化に強いいため、本剤は通常の水和剤と同様に常温で保管できます。
- ネコブセンチュウのみに寄生するため、他の生物相に影響を与えることはありません。

## 適用病害虫名および使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 又は 使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	パストリア ペネトランスを 含む農薬の 総使用回数
野菜類 いも類	ネコブセンチュウ	1～5kg/10a	150～200ℓ /10a	定植前	—	土壌表面に 散布し混和	—
		0.5g/ 穴	1ℓ/ 穴	定植時		植穴土壌灌水	
いちじく		1～5kg/10a	150～200ℓ /10a	定植前		土壌表面に 散布し混和	
			300ℓ/10a	生育期		土壌表面に散布	

## 使用上の注意事項

- 本剤は水に溶けにくいので、所定量の水に少量ずつ攪拌しながら加え、均一に分散させて散布液にしてください。
- 本剤は圃場に均一に散布し、土壌中に均等に分布するように良く混和してください。
- 本剤はネコブセンチュウに寄生する天敵なので、本線虫の被害があるところで使用してください。
- 本剤は直接殺線虫力がないので、線虫密度が高い場合は効果が劣るおそれがあることから、既存殺線虫剤と併用することをおすすめします。殺線虫剤を使用しない場合は、太陽熱処理等土壌中の線虫密度を低くする技術との併用をおすすめします。
- 本剤は連作することによって土壌中の菌密度が高まり、土壌中の線虫密度が低くなります。作物の根部には菌が生産されているので、収穫後の根部は土壌に戻すことをおすすめします。
- クロルピクリンは本剤に影響を与えるので併用しないでください。
- 本剤は生育期のいちじくに使用する場合は、土壌表面散布後灌水等により土壌中に均等に分布させる処置を行ってください。
- 本剤は施用後土壌に定着し、作物を連作することにより数年にわたり菌密度が高くなり、線虫被害を抑えることができます。又、永年作物であるいちじくでは数年経過することによって同様に線虫被害を抑えることができます。従って、ホンジアの使用法については、病害虫防除所等の関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

## 安全使用上の注意事項

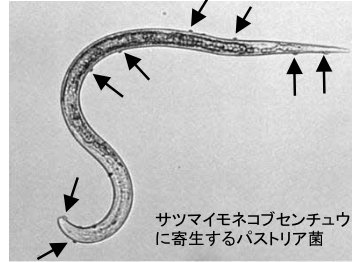
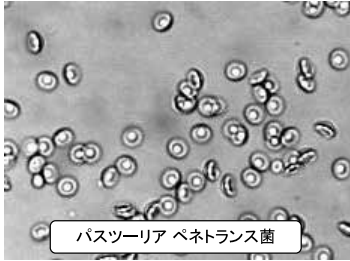
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。使用後は洗眼してください。
- 本剤は皮ふに対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。

# パストリア水和剤技術情報

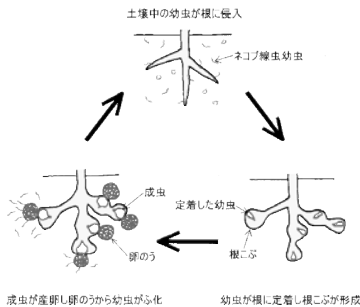
## パストリア水和剤の特性

### 効果上の特徴

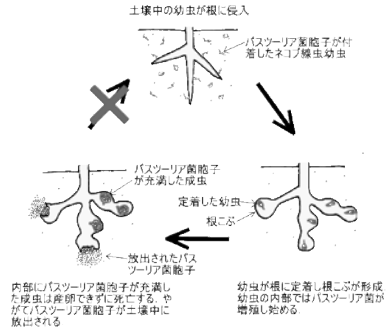
- 生物農薬でありながら扱いが簡単
- ネコブ線虫を餌にして自己増殖する
- 他の防除技術との併用が可能（クロルピクリン、臭化メチルおよび蒸気消毒は除く）
- 有機農産物に使用可能な適合農薬（天敵微生物）
- 環境および作物にやさしい



### ネコブセンチュウの増殖方法



### ネコブセンチュウの増殖とパストリア菌の感染



## 使用上の注意点

### 複数作連続使用が望ましい

収穫後の耕起で次作の株元のパストリア菌濃度が薄まる可能性があります。株元の菌密度を維持するため、次作も使用することをおすすめします。

### 定植時の線虫数に注意

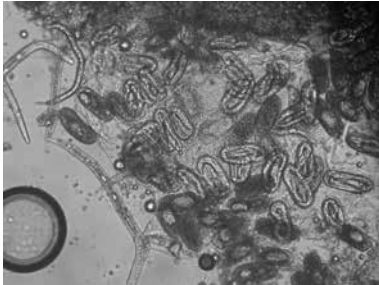
定植時の線虫数が多すぎるとパストリア菌の効果が不十分な場合があります(他の防除方法との併用)。

### 処理後の灌水

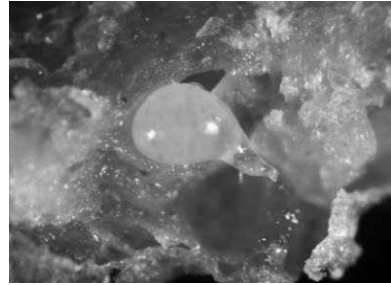
パストリア菌は自分では動けないので、処理時の薬液量および処理後の灌水量が少なすぎると線虫が加害する場所に到達できず、防除効果が充分出ない場合があります。

パストリア水和剤と従来の線虫剤との比較

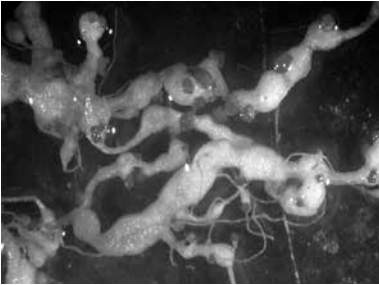
	パストリア水和剤	従来の線虫剤
作用ステージ	成虫	卵、幼虫
根こぶの形成	有	無
効果の早さ	遅効性	速効性
処理後の有効成分量	増加 (ネコブセンチュウ存在時)	減少
残効	長い(数年単位)	比較的短い
効果の判断	作物の生育状況	根こぶ形成の有無



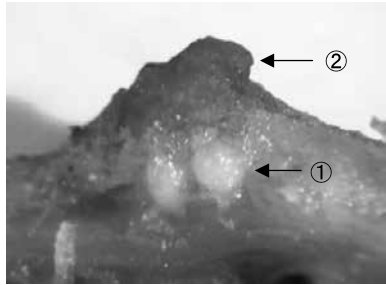
▲ネコブセンチュウ 1 期幼虫 (ふ化前)



▲根こぶ内の雌成虫



▲ネコブセンチュウの卵のうを染色した様子



▲根の導管に食い込むネコブセンチュウの雌成虫(矢印1)と卵嚢(矢印2)

▶増殖したパストリア菌

